

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 3

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

⑩ 高校生の学び成長するための『大学選び』 (中編) — 偏差値の正体と問題を知って偏差値をうまく利用せよ —

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



前回（⑥～⑧）ではPoint3のお話をしました

溝上慎一（2021）. 高校生の学びと成長に向けた 「大学選び」—偏差値もうまく利用する— 東信堂

第1部 自身の「大学選び」の質を高める5つのポイント

第1章 Point 1 将来の見通しを持つ

第2章 Point 2 「大学で何を学びたいか」からではなく、「将来どのような職業に就きたいか」から「学部選び」を行う

第3章 Point 3 大学がアクティブラーニング型授業を積極的に推進しているかを調べる

第4章 Point 4 偏差値をうまく利用する

第5章 Point 5 三大都市圏以外の大学を選択肢に含める

第6章 （おまけ）中小企業はおもしろい！

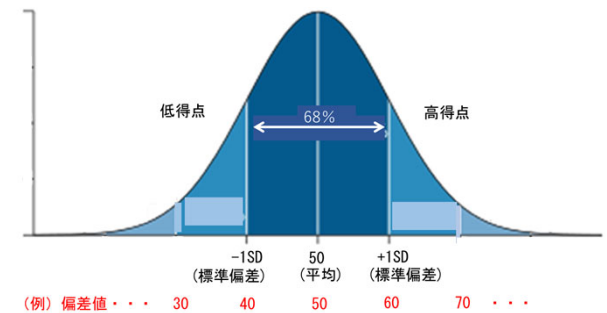
——ここから職業、「大学選び」を考えてみる

第2部 高校生からの質問に答える



偏差値の特徴と問題点

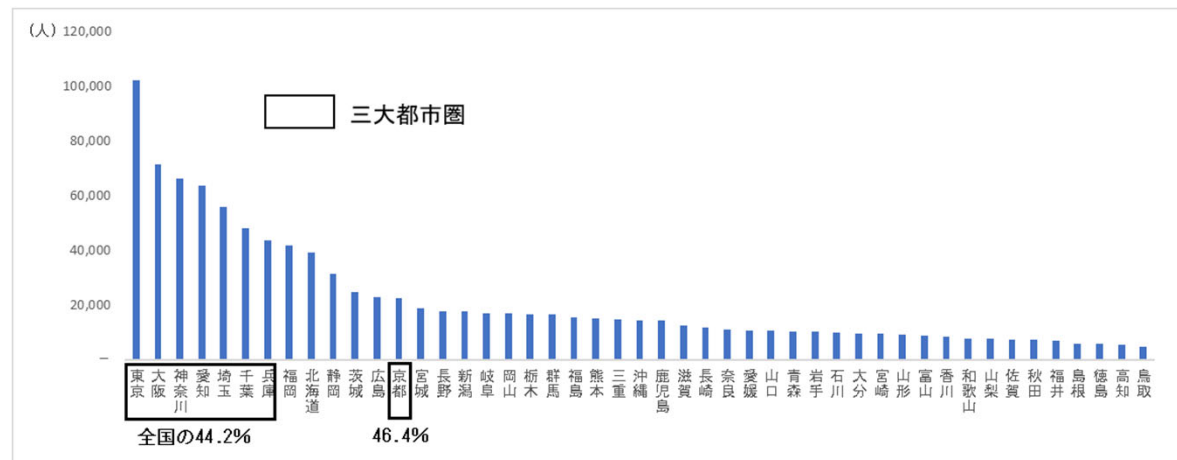
- 偏差値は本質的に全体の中での「順位」を表す
- 大学偏差値は全国の高校生データから作成される。



偏差値は県別人口の多い三大都市圏の影響を大きく受ける

- 首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）
- 関西圏（兵庫、大阪、京都）
- 名古屋圏（愛知）

• 首都圏も含めて全国的には地元志向が強い中、多くの高校生に志望されない大学の偏差値は必然的に低くなる。逆に、多くの高校生に志望されれば、偏差値は高くなる



都道府県別に見た高校生数（1学年）と三大都市圏の全国に占める割合

偏差値をどのように利用するか？

- 偏差値の高い大学＝「良い大学」では必ずしもないことを認識する。
- 一般選抜を実施する大学を受験する場合には、偏差値は利用すべき有効な指標であると言えます。
- また、総合型選抜や学校推薦型選抜等で大学を受験する場合で教科の試験がない場合でも、自分の能力に合ったレベルの大学を選ぶのに偏差値は参考になります。
- 三大都市圏の受験生は、自身が在住の都市圏の大学を志望する以上、知らず知らずのうちに難しい土俵で闘っていることを自覚した方がいい。
- 首都圏在住の高校生は、首都圏以外の三大都市圏、すなわち関西圏・名古屋圏の大学も候補に含めて「大学選び」をした方がいい。
- 地方の大学の偏差値に+10くらいで見ると実際の威信に近づく。

偏差値の高い大学が本当に就職に有利か？

偏差値の低い大学は就職に不利か？

ご視聴有難うございました
To be continued
チャンネル登録をお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。
E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

